

<『音楽のサイコロ遊び』はモーツァルトによってプログラミングされた自動作曲システム!?!>

最近のAIによる音楽生成の進歩は日々著しく、もはや作曲技法を学んでいない素人でも、誰でも作曲が楽しめるような時代になりました。そんな時代がやがてやって来ることを予見していたのか、否か、モーツァルトは彼でなくてもモーツァルトらしい音楽が自動的に作曲できてしまうシステムを今からはるか200年以上前に開発していました。それが1787年、モーツァルト31歳のときに作曲された『音楽のサイコロ遊び』です。この年は、実は彼にとって悲しい出来事が集中的に襲ってきた年でもありました。生活は困窮を極め、更には一番の相談相手であった父レオポルトと愛する三男を立て続けに病気で亡くすという悲しみを抱えながら、有名なアイネ・クライネ・ナハトムジークや音楽の冗談などそんな悲しみを微塵にも感じさせない楽しい音楽を、次から次へと作曲していきます。



ZAHLENTAFEL.  
TABLE de CHIFFRES.

	A	B	C	D	E	F	G	H
Erster Theil. Premiere Partie.	2 99	59	141	41	108	152	11	30
3	22	5	198	63	140	46	134	81
4	69	53	128	13	143	54	110	94
5	40	17	113	64	161	9	159	100
6	148	74	163	43	80	97	36	107
7	104	167	97	167	154	67	118	91
8	149	60	171	49	99	133	91	197
9	119	94	114	40	140	86	169	94
10	98	142	42	126	74	129	69	193
11	3	87	164	61	134	47	147	33
12	44	190	10	108	96	37	106	4
Zweiter Theil. Seconde Partie.	2 70	141	26	9	119	49	109	14
3	117	39	196	46	174	18	116	83
4	66	159	14	139	73	48	144	79
5	90	179	7	114	67	160	49	170
6	36	143	64	194	76	130	1	93
7	138	71	140	99	101	169	23	141
8	16	144	47	174	43	168	89	179
9	120	64	44	166	41	114	79	111
10	64	77	19	89	137	38	149	8
11	102	4	31	164	144	49	173	78
12	34	20	104	99	19	194	44	131

また18世紀後半から19世紀前半にかけては、ヨーロッパ中で『音楽のサイコロ遊び』と題された音楽遊びが流行していた時期でもありました。モーツァルトのほか、ハイドンやバッハの息子のカール・フィリップ・エマヌエル・バッハなどの作曲家も作品を残しており、様々な楽譜が出版されていました。出版譜には「作曲の技法を知らない人でも無数の曲を作ることができる」と謳われ、1から3までの目のサイコロ、あるいは6面から9面まであるサイコロを振って出た目の数によって、メヌエット、コントルダンス、ワルツなどの舞曲やマーチが自動的に作曲できてしまうような仕掛けになっていました。モーツァルトの「音楽のサイコロ遊び」は、死後の1792年にベルリンのジムロック社からドイツ語、フランス語、英語の説明付きで出版されています。楽曲は陽気で快活な曲調のコントルダンス（カントリーダンス。18世紀にフランスで大流行した舞曲のこと）で16小節で成り立っています。1小節から16小節の各小節には、各々に11種類(2~12番)が用意されていて、2個のサイコロを振り、それらの出た目の合計数に用意された小節を16小節分、16回分サイコロを振った結果の組み合わせで曲が完成します。